

◆キャッシュフロー表とは？

現在の収支状況や今後のライフプランをもとに、将来の収支状況や貯蓄残高を予想、表形式にまとめたもの

◆キャッシュフロー表を作成する意義

毎年の収支状況および貯蓄残高の把握が可能
⇒資金面など問題点がないか、問題点があるのであれば解決策はどうすべきかなどの検討が可能となる

◆キャッシュフロー表に盛り込む内容

年齢、収入、支出、貯蓄残高、変動率などを記入

◆注意点

- ①通常、1月1日～12月31日を1年として考える
- ②収入は手堅く、支出は少し多めの予想で
- ③変動率も手額見積もる必要あり
- ④収入や支出面で見落としがないか確認を

DC資料②(キャッシュフロー表をつくってみよう！)

＜キャッシュフロー表の作成例＞(28歳～38歳の部分)

ライフイベント表をもとに、将来の収入・支出を見積もり、今後の貯蓄残高の推移をシミュレーションするキャッシュフロー表を作成いたしました。

単位:万円

年次		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
西暦	(年)	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
平成	(年)	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
A様の年齢	(歳)	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38
奥様の年齢	(歳)						31	32	33	34	35	36
お子様の年齢	(歳)								0	1	2	3
A様の給料	2.0%	280.0	285.6	291.3	297.1	303.1	309.1	315.3	321.6	328.1	334.6	341.3
収入合計		280.0	285.6	291.3	297.1	303.1	309.1	315.3	321.6	328.1	334.6	341.3
基本生活費	1.0%	120.0	121.2	122.4	123.6	124.9	150.0	151.5	170.0	171.7	173.4	175.2
住居費	—	84.0	84.0	84.0	84.0	84.0	120.0	120.0	120.0	120.0	120.0	120.0
住宅諸経費	—								10.0		10.0	
旅行費用	1.0%	11.0	11.1	11.2	11.3	11.4	11.6	11.7	11.8	11.9	12.0	12.2
教育費	2.0%											
一時的な支出	1.0%						210.2					331.4
その他支出	1.0%						10.5	10.6	10.7	10.8	10.9	11.0
支出合計		215.0	216.3	217.6	219.0	220.3	502.3	293.8	322.5	314.4	326.4	649.7
年間収支		65.0	69.3	73.7	78.2	82.8	-193.1	21.5	-0.9	13.6	8.2	-308.4
貯蓄残高	0.05%	100.0	169.3	243.1	321.4	404.3	211.4	233.0	232.3	246.0	254.4	-53.9

※1 基本生活費は、住居費以外にかかる生活費を計上。結婚予定の5年後までは現状の生活費年間120万円を基に推計、結婚後奥様の生活費も考慮して年間150万円にて推計、その後お子様が誕生してからは年間の生活費を170万円と想定して基本生活費を年1.0%の割合で上昇すると仮定しています

※2 住居費は、結婚後は新居にて月額10万円の家賃を支払うと想定。住居諸経費は、更新料(家賃1ヵ月分)を想定しています

<問題点の分析>

- ◆結婚を機に、生活費の負担が重くなっていくため、5年後にはキャッシュフローが赤字に、10年後には貯蓄もマイナスとなる状況になってしまいます
- ◆貯蓄残高には多少のゆとりをもたなければ、夢である独立開業も厳しい状況です
- ◆現状における基本生活費が多少浪費気味であると思われます
- ◆A様の収入だけでは夢や目標を達成することは難しい部分があります。将来の奥様にも夢を共有し、共に働くことで夢を実現するようにしていきましょう

<解決策の提案例>

- ①現状の基本生活費を月額8万円におさえます。これに伴い、将来の基本生活費も年間で30万円削減することとします
 - ②旅行費部分を年額8万円におさえます
 - ③車の購入費用を250万円におさえます
 - ④将来の奥様にも夢を実現するために、年間100万円程度の収入(手取り)を得られるよう働いていただいてはいかがでしょうか。ただし、年間1.0%の上昇率とし、控え目に見積もることとします
 - ⑤現状では貯蓄残高はすべて預金による運用としたため、利回りを低く見積もっていますが、今後は株式や投資信託などのリスク性のある資産運用も視野に入れることで年間の運用利回り2%を目指すこととします
- 以上より、解決策実行後のキャッシュフロー表を作成し、問題がないか再度検討する。